

新たな麦制度と製麺業界の対応

No.3

業務用小麦粉24年ぶり値上げへ

1袋(25kg) 強力粉・中力粉 20円～90円上げ
薄力粉は値下げも

5月GW明け頃から実施か

新たな麦制度が4月からスタートすることに合わせ、製粉メーカー各社は相次いで小麦粉の特約店出荷価格の値上げを発表しました。小麦粉価格の値上げは実に24年ぶりの

ことです。値上げ額は、1袋25kg当たり20円～90円となっています。製麺業界でも今後、麺製品価格への転嫁が課題になってきます。(編集部)

新たな麦制度は、海外の穀物相場や為替、海上運賃などの変動に応じて、輸入小麦の国内での政府売渡価格が年2～3回変動していくのが特徴です。新制度は今年4月からスタートし、初回の政府売渡価格(4～9月期)は、主要5銘柄平均で1.3%引上げられました(2月、3月号既報)。

45円値下げ。また、国内産小麦使用の麺用小麦粉は中力系で25円～30円程度の値上げとなります。

これに対応して製粉メーカー各社は、小麦粉価格の値上げ改定を実施します。改定額は、強力粉・準強力粉で25kg当たり20円～90円、中力粉で25円～62円の値上げとなります。逆に薄力粉は据え置きか

新価格の実施時期は、各社とも「後日発表」としていますが、概ね5月のゴールデンウィーク明け頃になる見込みです。

製粉メーカー各社の改定額は、メーカーによって配合が異なることもあり、微妙に違っているのも、これまでとは違う動きといえます。各社の改定額は次の通りです。

45円値下げ、一部の銘柄は据え置き。

〈日東富士製粉〉

強力・準強力小麦粉で20円か80円値上げ。一般的な強力粉で20円値上げ、PH主体の小麦粉で80円の値上げ。中力粉では、国内産小麦100%の小麦粉で26円の値上げ。ASW主体の小麦粉で61円の値上げ。

〈熊本製粉〉

25kgあたり、強力系小麦粉で20～90円値上げ、中力系小麦粉で25円～61円値上げ、薄力系小麦粉で据え置き。45円値下げ。

〈鳥越製粉〉

強力粉・準強力粉は、一般

小麦粉卸価格 も上げへ

の強力・準強力粉で20円値上げ。PH主体の強力・準強力粉で90円値上げ。国内産小麦100%の強力・準強力粉は「別途相談」。

製粉メーカー各社が小麦粉の特約店出荷価格を上げ改定したことに伴い、小麦粉元卸各社も5月GW明け以降の販売価格を連動して値上げする動きにあります。

これは、今回の麦制度改革

〈日本製粉〉

強力粉・準強力粉は20円か90円の値上げ。一般的な強力粉が20円値上げ、PH主用の小麦粉で90円値上げ。中力粉はASWの売渡価格5%引き上げを反映して一律62円の値上げ。国内産小麦使用の小麦粉で25円の値上げ。

薄力粉はWW使用の小麦粉で45円の値下げ、それ以外の薄力粉は据え置き。1等、2等は同額改定。

〈日清製粉〉

強力系小麦粉(準強力粉含む)は25kg当たり20円～80円値上げ。一般的な強力粉で20円値上げ、PH(豪州産プラムハード小麦)使用の小麦粉で80円の値上げ。その間に、相手先仕様の小麦粉が含まれる。

中力系小麦粉は25円～60円

〈昭和産業〉

強力粉・準強力粉は20円か90円の値上げ。一般的な強力粉で20円値上げ。PHを主体にした小麦粉で90円の値上げ。国内産小麦を主体にした小麦粉で90円の値上げ。中力粉は30円か60円の値上げ。一般的な中力粉で60円の値上げ。国内産小麦を主体とするもので30円値上げ。薄力粉は一般的な薄力粉で

薄力粉は一般的な薄力粉で